

A decorative graphic on the right side of the slide, consisting of several overlapping, semi-transparent teal shapes that form a stylized, jagged pattern.

面接シナリオ型休職 制度

メンタルヘルス不調による休職者が増加し、明確な基準が不足しています。

01

メンタルヘルス不調増加

職場でのメンタルヘルス問題が増え、多くの従業員が休職を余儀なくされています。この傾向は企業にとって大きな問題です。

02

曖昧な基準によるトラブル

現在の休職制度では診断書に依存しがちで、基準があいまいです。その結果、判断ミスやトラブルが発生しています。

03

支援の重要性

メンタルヘルス不調者への支援は企業にとっての重要課題です。適切な制度を設けることで、復職を支援する必要があります。

新たな休職制度の提案

新しい休職制度を導入し、従業員の職場復帰を円滑に進めることを目指します

。

01

面接シナリオ型制度

面接シナリオ型休職制度は、職場復帰を前提とし、明確な基準を設けた制度です。

02

家族の参加

制度では家族も面接に参加し、会社の休職制度について一緒に理解をしてもらいます。

03

各期間の対応

休職期間をいくつかに分け、それぞれの期間に応じた対応を行うことで、計画的に職場復帰を進めます。

面接シナリオ型休職制度とは

面接シナリオ型休職制度の特徴を解説します。

01

職場復帰を前提

この制度は、休職後の職場復帰を前提に設計されています。復帰に向けた明確なルールが重要です。

02

明確な基準設定

職場復帰基準を明確にすることで、判断時の混乱を防ぎ、適切な支援を行いやすくします。

03

説明時は読み上げる

労働者及び家族に説明する内容を作成し、その内容のみを読み上げて貰う対応をして貰います。

職場復帰に必要な3つ基準を明確にすることで、適切管理を実現します。

① 業務基準

従業員は元の職場、元の職位で、元の職務に復帰することを前提とします。

② 労務基準

会社の定める服務規律に従い、かつ、労働契約の内容で定められた労働契約の内容のとおり業務に従事することです。

③ 健康基準

主治医の先生から、健康上の問題による業務への支障がないこと、及び業務を遂行する上で健康上の問題が発生するリスクが低減されていることを意味します。

職場復帰基準①: 業務基準

従業員は元の職場、元の職位で、元の職務に復帰することを前提とします。

元職場

「元職場」とは、従前に勤務していた職場のことです。職場復帰の際は、原則、この従前に勤務していた場所に復帰してもらいます。

元職位（職位相当）

例えば、一般社員の職位相当の業務とは、主に与えられた指示に従って業務を遂行することであり、課長の職位相当の業務とは、部下の指導や管理、プロジェクトの推進など、より責任や権限を伴う業務となります。

元職務

「元職務」とは、従前に従事していた職務の内容のことをいいます。。。

職場復帰基準②: 労務基準

職場復帰に必要な労務基準を設定し、適切な勤務を促進します。

服務規律の遵守

従業員は会社の服務規律に従い、コミュニケーションを図りつつ勤務することが求められます。これが円滑な業務遂行に繋がります。

勤務態度の重要性

労務基準は勤務態度に大きく影響します。職場復帰後は、規律を守ることが重要です。

労働契約の本旨弁済

労働契約に記載された内容に従った業務を実施することで、例えば、フルタイム勤務者であれば1日8時間、週5日勤務がこれに当たります。

職場復帰基準③: 健康基準

職場復帰に必要な健康基準を確認し、治癒（寛解）を確認します。

健康状態の確認

健康上の問題による業務への支障がないことの主治医の意見が必要です。

業務支障リスク低減

及び業務を遂行する上で健康上の問題が発生するリスクが低減されているとの主治医の意見が必要です。

産業医の意見確認

会社に産業医がいる場合、産業医からの意見を求め、意見を確認することも必要です。

休職期間中の対応

各休職期間における対応手順を明確にし、サポートを充実させます。

療養開始時の説明

休職開始時には、労働者本人及びその家族への復帰基準の説明が行われ、適切なサポートを提供します。

報告手順の設定

休職者には毎週、会社所定の報告書を提出してもらい、現況を把握することで、労働者の状態を継続的に確認します。

各期の対応

休職期間の各期ごとに、適切なフォローアップを行うことで、復職への準備を整えていきます。

各期の会社側の主な対応

休職者に対する各期の主な対応手順について説明します。

療養開始時の対応

療養開始時には、労働者本人とその家族への詳しい説明が行われ、サポート体制を確認します。

療養専念期の対応

この期間中には、毎週報告書を提出してもらい、療養中の状況を把握します。これが重要なフォローとなります。

復帰検討期の対応

復職に向けた準備が整った際、主治医の意見書を確認し、健康基準をチェックすることが必要です。

各期の会社側の主な対応

休職者に対する各期の主な対応手順について説明します。

休職期間中の対応

